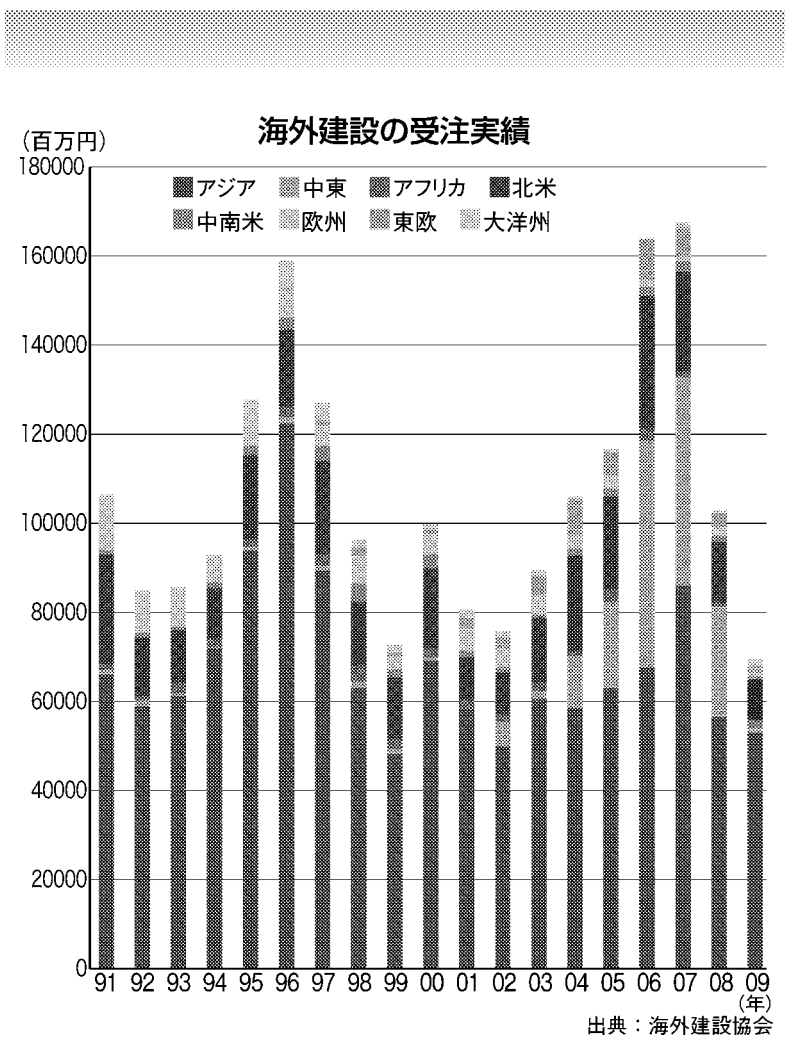


強み生かし技術力で勝負する 建設産業



6兆5890億円。年率換算では、限りなく10兆円を割り込む可能性もある状況だ。また、ここに来て民主党政権が財政赤字を背景に強力に推進する、公共事業費削減の影響で公共工事の依存度が、高い地方の中小建設業が倒産する傾向が鮮明になってきた。

帝国データバンクがまとめた「建設業者の倒産動向調査」によると、10年(12月)に倒産した建設業の負債規模は全体の45・3%を「5000万円未満」が占めた。これは財務体質が弱い中

1月の管内閣改造で馬淵浩夫国土交通大臣から、馬淵前国交相は11年度予算概算要求で、「真に必要なインフラ整備のために10年度水準の維持が必須」と強調、ギリギリまで調整したが、その努力は報われなかった。

予算内訳は限られた財源を新成長戦略を実現する事業に重点配分。地方公共事業は実質同4・2%減となった。公共事業が前面に押し出された従来の編成とは異なる、官民連携(PPP)や海外国交相同様モノづくりへ

その一方、国交省は限られた財源を有効配分するため、「新たな社会資本整備重点計画」の骨子を10年12月に提示。馬淵前

ゼネコン各社は国内の市場縮小に苦しみながらも、国内インフラの維持補修、高度な環境対策技術や新興国などで進むインフラ整備、日系メーカーなどの海外生産に対応した受注に生き残りの活路を見いだしている。大

「真に必要なインフラ整備のグランドデザイン」の策定が、12年度予算編成に向けてようやく動き出した。公共工事の投資方針を抜本的に見直す一方、高度経済成長以降、地方経済のエンジンの役割を果たしてきた公共事業政策を転換するため、建設産業の産業構造改革も国交省は政策主導を進める。

1月に出されたこの「建設産業の再生と発展のための方策に関する当面の基本方針」は、企業再編にも踏み込んだ。ただ、地方建設業の衰退はゼネコンの施工力低下に直結しかねない。その結果、日本の国力を支えるモノづくりへの影響が懸念される。地方の活気を取り戻しつつ、海外でも勝負できる建設業の基盤作りを進める国交省の責任は重い。

公共工事 方針見直し

「真に必要なインフラ整備のグランドデザイン」の策定が、12年度予算編成に向けてようやく動き出した。公共工事の投資方針を抜本的に見直す一方、高度経済成長以降、地方経済のエンジンの役割を果たしてきた公共事業政策を転換するため、建設産業の産業構造改革も国交省は政策主導を進める。

1月に出されたこの「建設産業の再生と発展のための方策に関する当面の基本方針」は、企業再編にも踏み込んだ。ただ、地方建設業の衰退はゼネコンの施工力低下に直結しかねない。その結果、日本の国力を支えるモノづくりへの影響が懸念される。地方の活気を取り戻しつつ、海外でも勝負できる建設業の基盤作りを進める国交省の責任は重い。

国交省、「真に必要なインフラ整備」

選択と集中 鮮明に

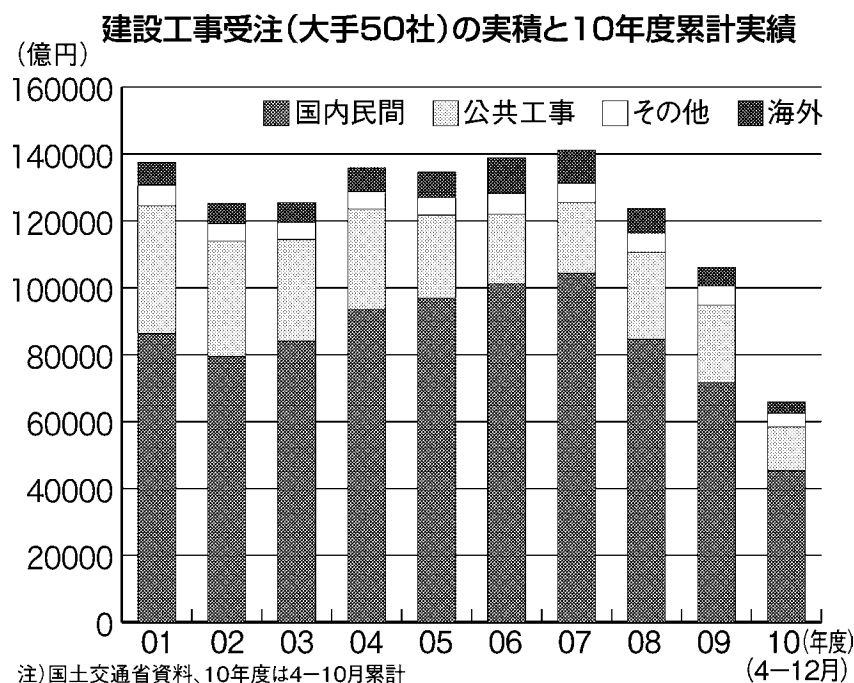
国交省がまとめた大手50社の10年度(4-12月累計)建設受注総額は、前年同期比5・3%減の

小業者が淘汰されているの造詣は深く、その手腕証し。さらに創業20年以上の老舗の倒産件数が全体の50%以上を占め、公共工事依存してきた従来の建設業が市場縮小で倒産するケースが増えている。

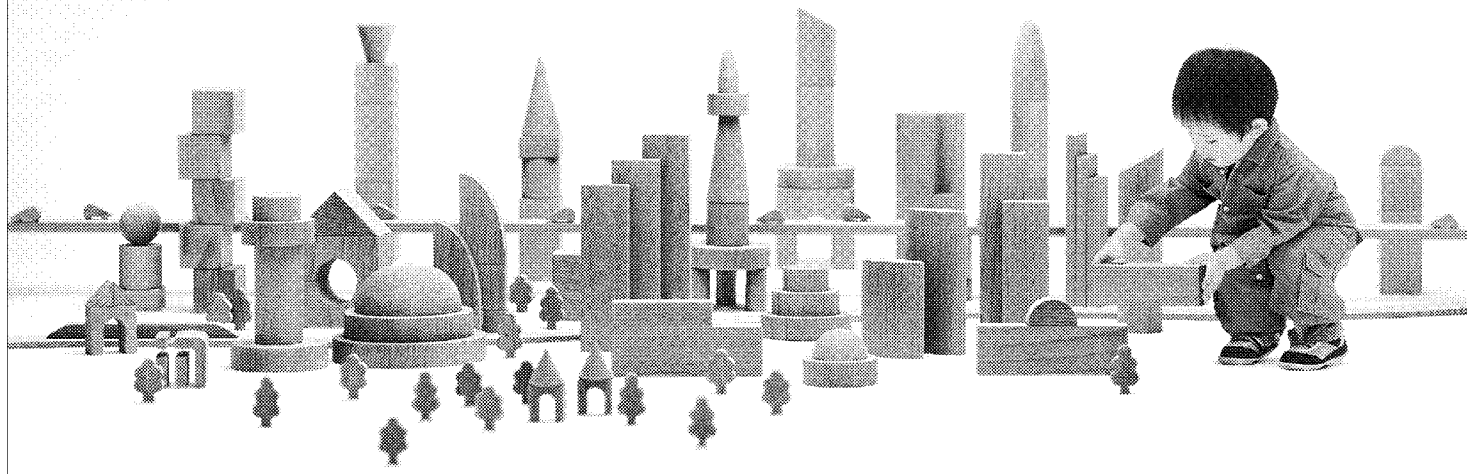
国交省がまとめた大手50社の10年度(4-12月累計)建設受注総額は、前年同期比5・3%減の

迫られる構造改革

2011年度の国内建設投資は77年度以来、33年ぶりに40兆円を割り込む公算が大きい。国土交通省がまとめた大手50社の10年(12月累計)建設受注総額は、2年ぶりにわずかに増加したものの、自律回復の力強さは感じられない。さらに慢性的な円高で製造業の現地生産が加速、工場投資が海外に流出している。内需産業の経済けん引力が弱く、自動車や電機といった輸出産業依存度が高いわが国の構造的弱点が、建設産業を直撃している。業界はかつてない構造転換期を迎えている。



想像を、チカラに。



フランス人の小説家、ジュール・ヴェルヌが残したという言葉があります。「人が想像できることは、必ず人が実現できる」

100年以上も前に彼が空想したロケットや携帯電話が、世界の常識になっている今日。私たちは、「想像」の可能性を否定することはできません。

いま、私たちが建設するひとつひとつが、地球の上でどんな存在なのか問われる時代。これから築かなければいけないのは、人と地球のいい関係です。100年先、200年先、ずっと先の未来まで。私たちは、想像します。たとえいま困難に思えることでも、やがて世界の常識になる日が来るために。

人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
鹿島

GO! GO!

TOKYO SKY TREE® by OBAYASHI

超高層を、超えてゆけ。

634mの天空、前例のない高さへ。

私たち大林組は、東京スカイツリー®の建設という壮大なプロジェクトに、総力を挙げて挑んでいます。様々な難題を超えて、あらゆる建造物を超えて。

GO!GO!という言葉には、関わる人すべての誇りと、世の中を元気にしながら伸びてゆくタワーの勢いを込めました。

世界一の自立式電波塔、東京スカイツリー®の建設は、大林組の仕事です。

www.skytree-obayashi.com



大林組

©TOKYO-SKYTREE

